

# 仙台稲作情報 2023 (第1号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL: 022-275-8410 FAX: 022-275-0296  
HP: <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> E-mail: [sdnkt@pref.miyagi.lg.jp](mailto:sdnkt@pref.miyagi.lg.jp)

## 令和5年産水稻の栽培管理のポイント

- 品質向上のため、土づくりを実践しましょう。
- 田植時期から逆算して育苗計画を立てましょう。
- 品質向上とリスク回避のため、晩期栽培に取り組みましょう。
- 直播栽培等の省力・低コスト化技術を活用して生産の効率を図りましょう。

## 1 土づくりの実践

水田における土づくりは、気象変動に強く、高品質かつ持続的な稲づくりを目指し、堆肥の施用、深耕、土づくり肥料の施用を組み合わせ実践しましょう。

### ○深耕

- ・深耕による根域拡大は、背白・基白粒、心白粒等を減少させ、整粒歩合を向上させます。  
目安：15cm 程度

### ○有機物や土づくり資材の施用

- ・肥料コスト上昇や気象変動に対応するため、土壌診断に基づく施肥や有機物（堆肥、稲わら等）を適量施用することにより、適切な肥培管理を行いましょう。
- ・完熟堆肥の連用は、稲わらすき込みや化学肥料のみの場合よりも、白未熟粒の発生抑制に効果があります。転換田においては、有機物を長期間施用しないと有機物が消耗し、これに伴い、土壌の可給態窒素も大きく減少します。
- ・ケイ酸質肥料は受光態勢の改善や光合成能力の向上、リン酸質肥料は低温時の活着促進や分けつ促進の効果が期待できます。

表1 土壌タイプと土づくり肥料及び堆肥の施用目安

土壌タイプ	土づくり肥料		堆肥 (t/10a)
	ケイ酸質 (kg/10a)	リン酸質 (kg/10a)	
黒ボク土	120~160	60~120	1.0~1.5
灰色低地土	60~100	40~100	1.0~1.5
グライ土	80~100	40~100	1.0~1.2
黒泥・泥炭土	120~160	60~120	0.8~1.0

## 2 育苗計画

育苗計画の第一歩は田植時期を決めることです。苗の種類ごとに育苗に必要な日数を参考に、田植えから逆算して種子の準備（浸種等）や播種時期を決めましょう。

標準的な育苗日数 稚苗：20~25日、中苗：30~35日

本県では、出穂期が早まることにより高温障害等の様々な弊害が発生しています。このため、晩期栽培に取り組み、播種時期や移植時期を遅らせ、適正な時期に出穂（8月15日頃）を迎え、高温障害や障害不稔を回避し、品質の安定化を目指しましょう。晩期栽培（出穂期：8月中旬）では、逆算すると田植時期は5月15日~25日となります。

なお、茎数の増加が緩慢な品種は田植時期を早め、「だて正夢」は5月中旬、「金のいぶき」は5月上旬~中旬までに実施しましょう。

■ 晩期栽培における注意点

- ・ 種籾準備の時期は、慣行栽培より気温が高くなっているため、芽を伸ばしすぎないようにします。
- ・ 育苗期間の平均気温は、慣行栽培の4月中の育苗よりもかなり高いので、苗の徒長や病害の発生を防ぐため温度管理に注意します。
- ・ 苗が徒長すると強風による植え傷みのおそれがあるので、目標葉数に到達したら速やかに移植します。  
苗質の目標値：苗長 10～15cm, 葉数 2.1～2.5 葉

表2 晩期栽培における必要な育苗日数（稚苗）

移植期	目標苗長, 葉数の到達に必要な育苗日数※	播種期
5月15日	約15日間	5月1日前後
5月20日	約15日間	5月6日前後
5月25日	約13日間	5月13日前後

※古川, 仙台, 白石の3地点のアメダス平年値をもとに算出した日数に、緑化終了までの6日間を加えた日数。

### 3 播種・育苗管理

(1) 種籾準備

① 比重選（塩水選）

比重選は下表を参考に必ず実施し、充実した種籾を確保しましょう。

表3 比重選の目安

種類	比重	水10%に対する必要量 (kg)	
		食塩	硫安
うるち種	1.13	2.1	2.7
だて正夢・もち種	1.08	1.2	1.5

(注) 「金のいぶき」は真水で実施します。

② 種子消毒

薬剤防除

- ・ 浸漬消毒の場合は、種籾と薬液の容量比を1:1以上とします。
- ・ ラベル等の表示をよく読んで使用してください。

温湯消毒

- ・ 63℃5分間の浸漬処理は、ばか苗病, 苗立枯細菌病, いもち病の同時防除が可能です。
- ・ 温湯消毒後の保管日数が長いと、ばか苗病が発生しやすくなるので、速やかに浸種しましょう。浸種まで日数を置く場合は、十分に乾燥させて風通しの良い場所につるし、未殺菌籾, ムシ口, 稲わら・籾等から遠ざけて保管しましょう。

微生物農薬

- ・ 温湯消毒と微生物農薬を併用すると、ばか苗病に対する防除効果が高まります。
- ・ 使用する培土は、pH等が調整された市販の培土とします。
- ・ 処理後、種籾を取り出すときは、種籾に付着した液を落とさないようゆっくりと取り出します。

③ 浸種（浸漬）

- ・ 水温は10～15℃が目安です。（15℃以上では、ばか苗病の発生を助長します）
- ・ 水の交換は2～3日毎に行います。
- ・ 種籾を浸けている水は、容器内の上下や外気温によって温度に差が出るため、こまめに水温を確認するとともに、重ねている種籾袋の上下を入れ替えます。

表4 品種ごとの浸種積算水温(℃×日)

品 種	積算水温
ひとめぼれ, まなむすめ, だて正夢, 金のいぶき	120℃ (例: 10℃×12日)
ササニシキ, みやこがねもち	100℃ (例: 10℃×10日)
つや姫	110~120℃ (例: 10℃×11日)

※育苗日数は, 出芽方法や育苗する時期によって異なる。

④催芽

- ・催芽時の水温は30℃を超えないようにします。
- ・催芽器を使用する場合, 催芽時間は28℃で「ひとめぼれ」が16~20時間程度, 「ササニシキ」では14~18時間程度とし, ハト胸状態にします。(右図参照)
- ・育苗器で催芽をする場合は, 温度のムラができないよう, こまめに種籾袋を反転します。

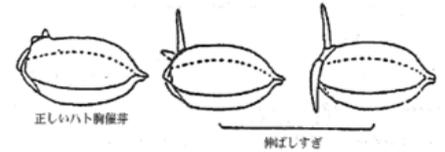


図1 種籾の正しい「ハト胸」状態

(2) 育苗管理(播種~硬化)

表5 ハウス育苗のポイント

播種	○播種量の目安 稚 苗 : 乾籾 120~160g/箱, 催芽籾 150~200g/箱 中 苗 : 乾籾 80~110g/箱, 催芽籾 100~130g/箱 ※「だて正夢」は「ひとめぼれ」比1割減, 「金のいぶき」は1.25倍程度で播種 ○苗箱数の目安 : 20箱/10a程度(密苗 8~11箱/10a) ○床土の量は, 厚さ2cm程度 ○床土へのかん水の量は, 育苗箱の底から水が滴る程度 ○覆土の量は, 種籾が見えなくなる程度 ○粘土質の強い土は, 覆土として使用しない	
出芽	<b>加温する場合(育苗器使用)</b>	<b>加温しない場合(ハウスに平並べ)</b>
	○育苗器の温度は30℃を超えないようにし, 芽が覆土上1cm程度出たらハウスに並べる。	○育苗箱をハウスに並べ保温シートを掛ける。
緑化	○保温シートを2~3日掛ける。	○第2葉が出始めたところに保温シートを外す。
	○出芽直後は原則としてかん水は行わない。 ○ハウス内の適正温度は, 昼間25℃程度, 夜間10℃以上 ○5℃以下の低温が予想される場合は保温する。	
硬化	○ハウス内の適正温度は, 昼間20~25℃, 夜間は10℃程度 ○「だて正夢」は草丈が伸びやすいので注意する。 ○5℃以下の低温が予想される場合は保温する。 ○かん水は, 覆土や葉が乾いたら, 朝のうちにやる。 ○田植え予定日の5~7日前になったら, 低温時を除き, 終日ハウスのサイドビニールを開放し, 苗を外気に慣らす。	

表6 育苗管理の目安

項目	稚苗	中苗
草丈 (cm)	10~15	13~18
第1葉鞘長 (cm)	3~4	2~3
葉数 (枚)	2.1~2.5	3.5~4.0
育苗日数 (日)	20~25	30~35

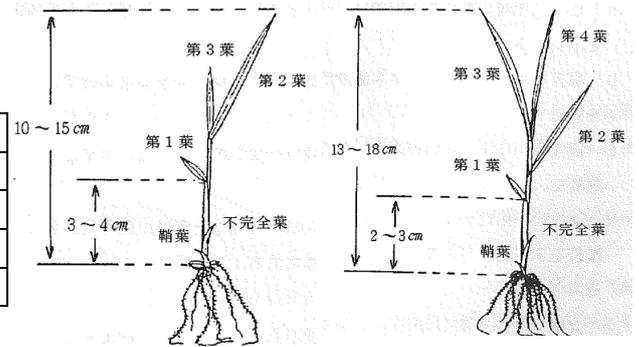


図2 田植え適期の稚苗（左）と中苗（右）

### (3) プール育苗

○メリット：かん水や温度管理等が大幅に省力化され、作業時間の大幅な短縮が可能です。

○ポイント

- ・置き床を水平（高低差が 1.7cm 以下）にしましょう。困難な場合は、段々畑のような小ブロックのプールでもできます。
- ・育苗箱を設置するときは、プールの周縁から 5cm 程度離して並べます。
- ・根張りがよく箱下に根が貫通するので、箱内に敷き紙を敷きましょう。
- ・プールへの入水は、慣行育苗の 1 回目のかん水と同じ時期に、床土の高さまで行います。
- ・2 回目以降の入水は、箱下に水がなくなる部分が現れたら、苗の草丈の半分程度までかん水しましょう。
- ・田植えの 2 日程度前にプールの水を排出しておく、運搬作業が容易になります。

注・草丈が伸びやすいので、低めの温度で管理しましょう。霜や低温注意報が発表された場合を除き昼夜ともハウス側面は解放しましょう。

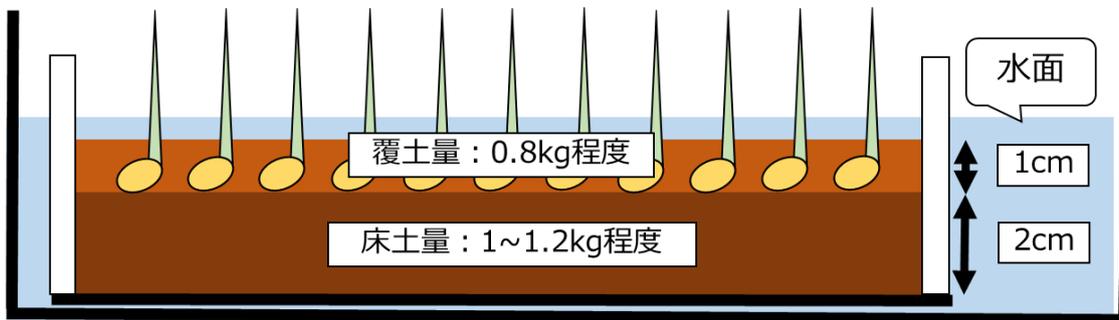


図3 プール育苗のイメージ

### (4) 高密度播種育苗（密苗育苗）

○メリット：育苗箱数が減ることで、播種や育苗にかかる資材コストの低減，運搬作業に伴う作業時間や労力の軽減，さらには育苗ハウスの省スペース化にも繋がります。

○ポイント

- ・播種量：乾籾 220~300g/箱
- ・一般的な稚苗よりも、苗が徒長・老化しやすい  
→育苗日数の目安：「ひとめぼれ」で 14~20 日（加温出芽の場合）
- ・5月播種では、4月播種よりも苗が伸びやすく、マット強度が確保しにくくなります。また、老化苗になるのも早いので、特に注意が必要です。
- ・箱当たりの種籾量が多いことから、出芽には通常の播種量よりも水分が必要となるので、播種後のかん水は、しっかり行いましょう。  
※被覆資材は、乾燥を防ぐため、隙間のないように被せましょう。
- ・ムレ苗の発生リスクが高くなる傾向があるため、薬剤防除や、高温・多湿になりすぎないように十分な換気を行いましょう。

## (5) 育苗期の病害対策

育苗期の病害を防ぐには、適切な温度管理と水管理を行うことが重要です。病害が発生した後からできる有効な対策はありませんので、下表の「発生要因」を確認し、病害が発生しにくい環境づくりに努めましょう。

表7 育苗期の主な病害

主な病害	特徴	発生要因	予防法	
ばか苗病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一葉鞘，新葉が徒長し，淡緑色となる</li> <li>・根数が少ない</li> <li>・籾や苗の基部が緑褐色～暗紫色となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・り病種子の使用</li> <li>・種子消毒の不徹底</li> <li>・育苗中の高温多湿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全種子の使用</li> <li>・塩水選，種子消毒の実施</li> <li>・適正温度での育苗管理</li> </ul>	
もみ枯細菌病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坪枯れ状に発生</li> <li>・新葉が葉鞘を破って途中から出葉する</li> <li>・芯が腐敗し，容易に抜ける</li> <li>・初期症状は，葉が白～暗褐色となり，腐敗・枯死する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・り病種子の使用</li> <li>・種子消毒の不徹底</li> <li>・出芽，催芽時の高温</li> <li>・育苗中の高温多湿</li> </ul>		
苗立枯細菌病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期症状は，もみ枯細菌病に酷似しているが，苗の芯は腐敗せず，抜けない</li> </ul>			
苗立枯病	フザリウム属菌 (白～淡紅色カビ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地際部，根が褐変</li> <li>・地際部及び籾に白～淡紅色のカビ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化開始直後の低温</li> <li>・床土のpHが5.5以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正pHの床土の使用</li> <li>・適正温度での出芽，育苗</li> <li>・適切な水管理（過乾燥・過湿の防止）</li> </ul>
	ピシウム属菌 (カビはみられない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水浸状になり，急激に萎凋，坪枯れが発生</li> <li>・地際部にカビはみられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化期以降の低温</li> <li>・床土のpHが5.5以上</li> <li>・育苗中の過湿</li> </ul>	
	リゾプス属菌 (白カビ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化開始時に箱全体が白カビに覆われる</li> <li>・棒状，球状の異常根が見られる場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽時の高温過湿</li> <li>・緑化開始約10日間の低温</li> <li>・育苗中の過湿</li> </ul>	
	トリコデルマ属菌 (青緑色カビ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の黄化が激しい</li> <li>・地際部及び籾に青緑色のカビ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽時の温度が30℃前後</li> <li>・床土のpHが4以下</li> <li>・床土の乾燥</li> </ul>	

## 4 本田管理

### (1) 基肥

- ・基肥窒素の役割は，初期生育の促進による有効穂数の確保です。窒素量は，作付品種や地力窒素の多少などを勘案して決めましょう。
- ・転作後の水稻初年目の復元田では，生育中期以降に地力窒素の吸収が多くなり，過繁茂や倒伏のほか，玄米タンパク質含有率が高まり食味の低下を招きやすくなりますので，基肥は無窒素または減肥し，生育状況を見ながら追肥で対応しましょう。

表8 品種ごとの基肥量の目安（成分量 kg/10a）

品種名	窒素	リン酸	カリ
ひとめぼれ	5	8～10	8～10
ササニシキ	3～4	6～8	6～8
だて正夢	5	8～10	8～10
金のいぶき	5以下	8～10	8～10
まなむすめ	5	8～10	8～10
つや姫(注)	5	8～10	8～10

(注) 「つや姫」は化学窒素量と有機態窒素量の合計を表記（育苗＋基肥＋追肥の化学窒素量合計は3.5kg以内）

### (2) 田植え

- ・強風下での田植えは植え傷みや浮き苗が発生しやすくなるので，温暖無風日を選んで行いましょう。
- ・「だて正夢」や「金のいぶき」など分けつが増えにくい品種の場合は，特に植付本数や栽植密度の確保に注意して田植えをしましょう。

### (3) 田植後の水管理（初期生育の確保）

- ・田植直後の苗は根からの吸水が少なく茎葉からの蒸散が多いので、活着するまでは葉先が2～3 cm 出る程度の深水とします。
- ・活着後は水深2～3 cmの浅水として水温・地温の上昇を図りましょう。
- ・低温や晩霜の心配がある場合は、水深5～6 cmの深水にしましょう。

### (4) 雑草対策

均平不足による湛水時の田面露出，対象草種の処理適期を逃した散布など，ほ場準備や除草剤の使用法に問題がある事例が見受けられます。

#### ○ほ場準備

- ・丁寧な代掻き（荒代・本代の2回実施など）や畦畔補修を行い，適切な除草剤を適期に散布することを徹底しましょう。

#### ○除草剤の適切な使用

- ・前年に残草が見られたほ場

→「初期除草剤と初中期一発剤」や，「初中期一発剤と中後期剤」等を組合せた「体系除草」を行いましょう。

- ・水持ちの悪いほ場

→豆粒剤やフロアブル剤などの水に溶けやすい剤型を用いると，田面水とともに有効成分が流亡するので，粒剤の使用を検討しましょう。

- ・除草剤は発生する雑草の種類によって効果が異なります。

→発生又は残草した雑草に効果のある除草剤の選定など，不明な点については，当普及センターまでお問い合わせください。

#### ○除草剤抵抗性雑草や難防除雑草への対策

- ・県内では多くの草種でスルホニルウレア系除草剤成分（SU）の抵抗性個体群が確認されています。

→特定の除草剤の成分の連用を避けるとともに，従来型のSU抵抗性個体にも有効な新規阻害剤（白化成分など）が含まれる剤を選定して使用しましょう。

## 5 「金のいぶき」の栽培

「金のいぶき」では穂数不足により減収する事例が多く見られます。栽植密度や植付本数が少なならないようにしましょう。

### (1) 種子準備

- ・種子選別は，水選（比重 1.00）とします。
- ・温湯消毒で発芽率がやや低下すること，ばか苗病が発生しやすいことから，薬剤消毒とします。
- ・浸種時間は「ひとめぼれ」と同程度とします（積算温度 120℃）。
- ・催芽水温は28～30℃で，「ひとめぼれ」と同程度の16～20時間を目安とします。

### (2) 育苗

- ・出芽が不揃いで，根張りも弱いため，加温出芽を基本とし，播種量を「ひとめぼれ」慣行の1.25倍程度に増やしましょう。
- ・出葉速度が「ひとめぼれ」と比べて早く，苗が伸びやすいので温度管理に注意しましょう。

### (3) 基肥

- ・基肥窒素量は「ひとめぼれ」と同程度とし，地力の高いほ場では倒伏するおそれがあるため，やや少なくしましょう。

### (4) 田植え

表9 田植え時の目安

	稚苗	中苗
播種量の目安	乾粃 200g/箱	乾粃 140g/箱
田植時期，栽植密度	田植え：5月上～中旬，栽植密度：60本/株	
植付本数	4～5本/株	3～4本/株

- ・初期生育確保のため，極端な疎植栽培や，低温が予想される時の田植えは避けましょう。
- ・植付本数に合わせて，田植機の掻き取り量を必ず調整しましょう。

(5) 病虫害防除

いもち病に弱いので、2回防除（箱施用剤＋水面施用剤）が基本です。必要に応じて出穂直前に茎葉散布剤で穂いもち防除も実施しましょう。

6 直播栽培

水稲直播栽培は、春作業の省力化と、秋の刈取時期が移植栽培より遅くなることを利用した、秋作業期間の拡大が可能となります。

表 10 直播栽培の種類ごとの特徴

種類	メリット	デメリット
湛水直播	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土壌，天候の面での適応範囲が広い</li> <li>・ 降雨に制約されない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥害に遭いやすい</li> <li>・ 倒伏しやすい</li> <li>・ 種子のコーティングが必要</li> </ul>
乾田直播	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的倒伏しにくい</li> <li>・ 鳥害に遭いにくい</li> <li>・ 代かきが不要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耕起，播種作業が天候に左右される</li> <li>・ 乾田期の雑草発生量が多い</li> <li>・ 砂質ほ場では，漏水が多い</li> </ul>

(1) 湛水直播栽培（べんがらモリブデン）

- ・ 種子は、積算気温で 50～60℃（10℃の水で 5 日程度）で浸種し、出芽はさせないようにしましょう。
- ・ 被覆材は種子の 0.1～0.3 倍重とし、数回に分けて加えながら徐々に被覆します。被覆後は、清潔で通気性のよい敷物の上に広げて乾燥し、表面が乾いたら通気性の良い袋に入れて保管します。
- ・ 仕上げ代かきは播種 2 日前～前日に実施します。ほ場全体の高低差は 10cm 以内にします。
- ・ 播種時期は 5 月中旬を目安とし、播種深は 0.5～1 cm 程度とします。
- ・ 除草剤は、播種同時の初期剤散布後、直ちに湛水し、自然落水で 7 日間湛水状態を維持します。
- ・ 播種後 7 日間は湛水状態とし、自然落水の後、出芽まで落水状態を維持します。

(2) 乾田直播栽培（プラウ耕鎮圧体系）

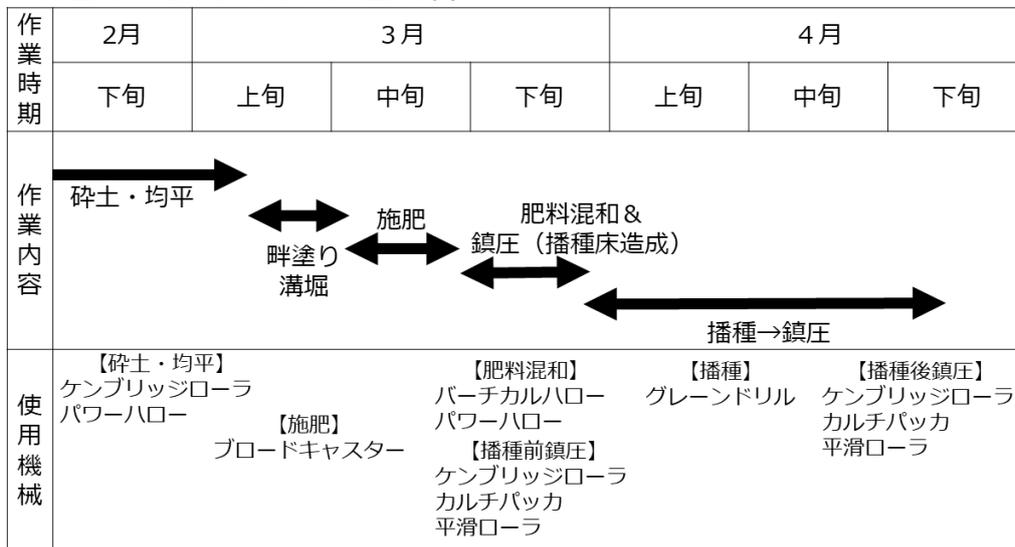


図 4 播種前後の流れ（イメージ）

1) ほ場準備

- ・ 苗立ち、水管理、雑草対策に影響します。
- ・ プラウ耕を実施した場合は、必ず均平作業を行い、田面高低差 10cm 以内になるように仕上げます。
- ・ 乾田直播では、代かきを行わないので、畦畔漏水を防ぐため畦塗り作業が必須です。
- ・ 播種前の鎮圧（播種床造成）を行い、硬い播種床を造ることで、播種深度が安定し、出芽揃いが良くなります。

※砕土率を十分に確保できない場合（70%未満）でも、播種前の鎮圧により、苗立ちが向上します。

## 2) 播種

- ・種子準備：ほ場条件などを考慮して、種子準備を行いましょう。

表 11 種子準備のメリット・デメリット

種子準備	メリット	デメリット
催芽粃	・出芽が早い	・ほ場の過乾燥や低温 → <u>出芽率が低下</u>
浸種粃	・苗立ちが安定しやすい ・乾粃より出芽が早い	・浸種の手間がかかる
乾粃	・苗立ちが安定しやすい	・出芽まで時間がかかる → <u>種子消毒・忌避剤の塗布が望ましい</u> が塗布の手間がかかる

- ・播種適期：3月下旬から4月下旬  
  - ※4月中旬以前に播種する場合は、種子消毒・忌避剤を塗布しましょう。
  - ※播種が早いからといって、必ずしも早く出芽するわけではありません。
- ・播種量：5～6 kg/10a  
  - ※休眠が深い「ひとめぼれ」は、多めの6 kg/10a で播種しましょう。
- ・播種深度：25mm 程度  
  - ※枕地部分は、トラクタなどで繰り返し踏むことになり、ほ場が硬く播種深が浅くなる可能性があるため、土壌水分が高い場合は注意が必要です。
  - ※施肥～播種後の鎮圧までの作業を短期間で行うことで、土壌水分が保持され、苗立率が向上します。
- ・条間：12cm または 15cm（播種機による）  
  - ※種子ホッパーのシャッターを閉めることで 24cm または 30cm の条間で播種が可能です。
  - ※地力の低いほ場では、莖数・穂数確保のため、狭い条間（12cm または 15cm）としましょう。

## 3) 播種後の鎮圧

- ・種粃と土が密着し、種粃に水分供給されやすくなり、出芽が良好になります。
- ・漏水防止に繋がり、除草剤・肥料の効果低減を防ぎます。

## 4) 雑草防除

水稻及び雑草の葉齢を確認し、適期に防除することを心がけましょう。

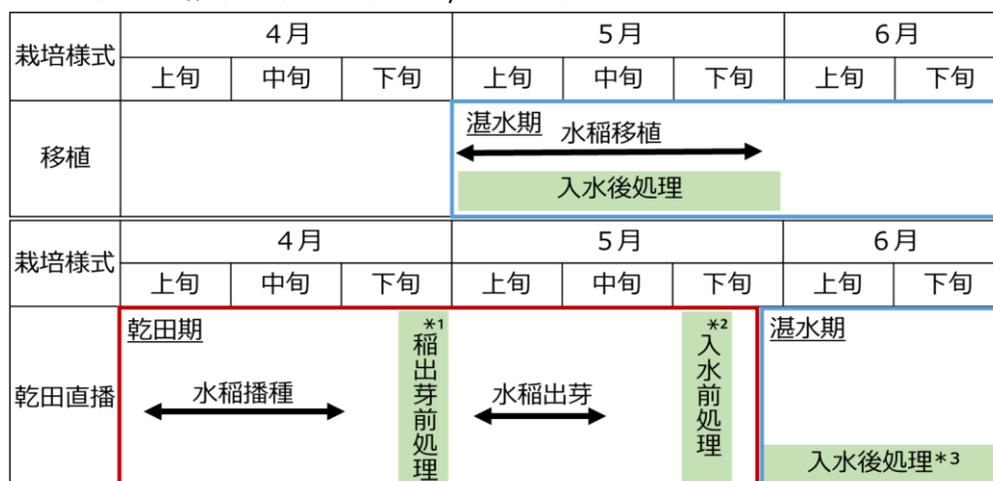


図 5 雑草防除の流れ（イメージ）

- \* 1：非選択性茎葉処理剤＋全面土壌処理剤
- \* 2：茎葉・全面散布 ※雑草・水稻の生育を確認しましょう。
- \* 3：水稻直播に登録のある除草剤を選定しましょう。

表 12 乾田直播栽培における使用薬剤（令和5年2月28日現在）

イネ出芽前	イネ出芽後～入水前
○非選択性茎葉処理剤 ・ラウンドアップマックスロード ・タッチダウン iQ ○全面土壌処理剤 ・マーシエット乳剤 ・サターンバアロ乳剤	○選択性茎葉処理剤 ・ノミニー液剤 ・クリンチャーEW ・クリンチャーバス ME 液剤 ・トドメ MF 乳剤 ・トドメバス MF 液剤 ・ロイヤント乳剤(イネ3葉期から) ・スタム乳剤 35



写真 オオクサキビの幼植物体

※最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください  
 ※農薬使用の際に飛散防止対策を講じたうえ、使用してください。

【除草剤を使用するにあたっての注意点】

- ・ノミニー液剤は、クサネムやイボクサへは有効ですが、オオクサキビやオオニワホコリといった大型イネ科雑草には効果が劣ります。  
 →大型イネ科雑草が発生するほ場では、クリンチャー剤やトドメ剤を散布し、葉が黄化するなど効果が見られたら、すぐに入水しましょう。
- ・除草剤の選定にあたっては、雑草の種類・葉齢及び使用時期（「ノビエ〇葉期まで」）を必ず確認して使用しましょう。使用方法なども、ラベルをよく確認して使用しましょう。  
 ※「移植」と「直播」で、登録内容が異なる場合があるので、注意が必要です。
- ・登録使用時期の終盤に散布すると、効果が低く枯死しきらない可能性があるため、余裕を持って（マイナス1葉くらいのタイミングまでに）散布すると、高い効果が期待できます。

※乾田直播栽培体系は、東北農業研究センターの「乾田直播栽培技術マニュアル Ver.3.2」を一部加工して作成しています。

4月から仙台市若林区区内において乾田直播栽培の勉強会（月1回）を開催する計画としておりますので、ご興味のある方は普及センターまでお問合せください。

○3か月予報（仙台管区气象台 3月2日発表）

向こう3か月（3月～5月）	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
気温	平年並または高い確率が、ともに40%となっており、特に3月は70%の確率で高い見込みです。
降水量	平年並の確率が40%となっています。

■令和5年春の農作業安全確認運動実施中（令和5年3月1日～5月31日）  
 重点推進テーマ「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

令和3年の農業機械作業に係る死亡者数が171件と高い水準にあることを踏まえ、引き続き、春（3～5月）と秋（9～10月）に重点期間を設定して、農業機械作業の事故防止に向けた運動が実施されています。

